



いまだき漫画事情



Cacco: しくしくしく。

うさお と Cacco

うさお: 何泣いてるんだい?

Cacco: 息子が自立しちゃって淋しいの。しくしく。

うさお: なーんだ、そんなことか。あいつの部屋に漫画が5,000冊もあるんだから、
まあこれでも読みなさい。さあさあさあさあ。

てなわけで毎日毎日うさお推薦の息子の蔵書をひたすら読み続ける。いまだきの漫画って絵柄には
ついていけずストーリーはやけにハードだったりする、と思い込んでた!

昔人間にも十分読めるいまだきおもしろ漫画をご案内いたします。



ピアノの森 一色まこと

森の端という色街で働く母に育てられた一ノ瀬海は元ピアニストの阿字野と出会い、
ライバル雨宮周平と競い合いながらピアノの才能を開花させていく。

Cacco: ガラスの仮面や入道根ものと共通した面白さがあるのね。ショパンコンクールで優勝
するのは誰か?とかね。こういう漫画の常だけどライバルはちょっとかわいそうね。どんなに努力
しても結局才能で主人公になれないわけだもん。絵は下手だけど見やすいよ。でも阿字野先生
のヘアスタイルってちょービミョウと思わない?

うさお: 一色まことは「つるもく独身寮」の時には、余り好きでは無かったかな。でも、化けたね。
この話は面白いし、海に感情移入しちゃうよ。なんか痛快なクラシック時代活劇を見ているようで、
早く喝采を浴びる印籠の場面を見たい。でも倅が中古本で無いと買わないので最新刊が読めないん
だよ。



おおきく振りかぶって ひぐちアサ

中学時代のトラウマをひきずり、弱気で卑屈で泣き虫で悪いことは全部自分のせい
と思いこむ、限りなく後ろ向きの主人公。思い切って飛び込んだ新設野球部で初め
て自分を理解してくれる仲間と出会い甲子園を目指していく。

Cacco: これは面白い!! ビビリ屋の主人公に激しく共感! ネコ目になるとこもかわいいの。
野球漫画の主人公には今までいなかったタイプ。野球は全くできないけど女性監督と一緒に部をサ
ポートする男先生のイメトレ法なんかも詳しく書かれてて面白い。けっこう試合で効果を発揮した
りしちゃうのね! ただみんなユニフォーム着てるわけで、誰が誰なのか区別がつかないところが難点。
ときに主人公さえ見分けがつかない。でもそれを乗り越えて面白いの!

うさお: 結構絵が下手なんで、女性監督「ももかん」が魅力的な女性なのかどうなのかが、その後
の展開を見なければ判らないところが難点だな。マネージャーの娘の思い入れが余り無いような
ので、女流漫画家である事を意識しないよ。うん、色模様が無いんだ。女流漫画家の常として、色模
様と言えば、ホモっぽかったり、極端にエロっぽかったりなんだけど、そこは淡々とね…。



都立あおい坂高校野球部 田中モトユキ

北大路輝太郎は姉と慕う鈴緒が監督を務める都立の弱小野球部に入部。鈴緒との6年前の約束を果たすため元チームメイトもおお高に集結する。たった一人来なかったコーチは強力なライバルとなりあお高の甲子園への道に立ちふさがってくる。

C a c c o : 読んでるときは面白かったけど「おおきく振りかぶって」を読んでしまった今となってはさほどの面白さはないかな。主役のキタローは左のアンダーロー。マリンスの渡辺俊介もこの漫画は読んでるらしい(^) 息子ちゃんは野球大好きだから蔵書に野球漫画多しだよ〜。

うさお : これ、旨く行き過ぎる。ぜんぜん、「あ〜こんなところで、もたもたして〜」ってところが無く、勝ち進んで行く。「バキ」って格闘技漫画も主人公が桁違いに強くて負けない。そういうのもいいんだけど嬌めがないね。チームの設定は「おおきく振りかぶって」と似ているよ。



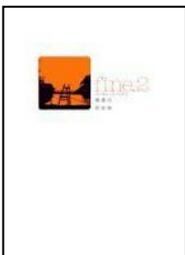
浅野いにお 素晴らしい世界・ソラニン

「素晴らしい世界」は短編集。「ソラニン」は2巻完結。

さみしがり、いじめられっこ、落ちこぼれ、社会とうまく適応できない主人公たちの日常と葛藤。

C a c c o : これじゃお絵柄がわからないだろうけど、この作者絵うまいと思います。昔のCOMなんか載っててもいいようなお話で、ちょっとネクラな人におすすめ。「ソラニン」はバンド仲間の話だけど作者もたぶん、てか絶対バンド志した人だと思う。家の息子ちゃんはこの手の漫画で人生の疑似体験をするのだと思うよ。

うさお : うちの倅はどこぞの漫画で馬鹿にされた「自分探しの旅」に自転車旅行をして来た。その行動力は評価するけど、「自分探しの旅」ってのは、今時どうすかねえ？倅も世の中のはみ出しっこのなのではと思っちゃう作品。最近の漫画家さんは、このような心理学を齧って来たような感觸があるって言うか、生半可なところがあって、「たつおと教授」か「由佳博士」にレクチャーして欲しいくらいだ。もちろん、「ソラニン」はそれらの中では抜群に抜きん出ています。こういうのをみつけてくる倅の才能に期待するところと不安を覚えるところがあるのは何故。



F i n e 信濃川日出雄

美大を出て、小さなイラストの仕事で食いつなぎながら売れない絵を描き続ける27歳。プライドだけは高いが、本気で勝負することもなく中途半端の日々を送っている。そんな彼が6年ぶりに大学時代の仲間が集まる飲み会に出席し生活に変化が訪れる。焦燥感溢れる青春群像劇。

C a c c o : うまい絵ではないかもしれないけど迫力あります。泥臭いところかえってリアルな印象を与えるって感じ。売れない芸術家をいくつまで続けるかってほんとに難しいんだろ〜なあ。みんながイチローってわけにはいかない。生活と芸術の折り合いってどうつけるんだ？「ソラニン」と同傾向のお話。わたしは好きです。

うさお : 美大生の質が変わったって思う。うさおがまだ高校生の美術部員だった頃に、OBさんが差し入れを持って訪れてくれたが、彼らは主人公上杉のような生き方をしてたな。つまりは美術

に対して純粋な生き方を現代で行うと、とても生き辛いのだという事が判る。

うさおは生き方が汚いから、まだ会社にしがみつこうようにして生きて居る。それはそれで人生に対する焦燥感はあるよ。

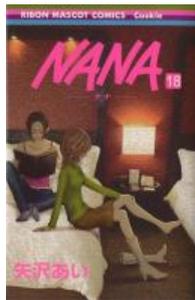


不思議な少年 山下和美

永遠の生を持つ少年は時の中を歩く。長い間ひとりの人間を見守り続け、ときにその姿を現す。少年に出会うことによって人は自身の心の内側を見ることになり、少年は長い旅を経てもなお「人間で何だ？」という問いを繰り返す。

Cacco：山下和美さんは絵があまり好きじゃないんでさっぱり読む気はなかったんだけど。これは面白い！！特に2巻が好きなのですが。こういう中編連作ってストーリー作りがすごく大変なんじゃないかと思う。山下先生には強力な編集さんが何人もついてるんじゃないか？ひとりでこれだけ多彩なストーリーで連載できたらたまげます。

うさお：Caccoが最初、山下和美は嫌いだと言うので、薦めなかった。でもうさおが熱心に読んでいると、傍に寄って来て「ねっ、それ面白い？面白い？」と聞いてくる。ストーリー展開は昔のCOMっぽいよって言うとうまく読み始めた。面白かったとみえ、それからは倅に続編は無いのかと聞いて怒られていた。



NANA 矢沢あい

奈々とナナが新幹線の中で運命的に出会い、東京で同居生活を始める。プロのミュージシャンを目指しBLACKSTONES（ブラスト）で歌うナナ。ナナの恋人蓮が所属するTRAPNEST（トラネス）。ふたつのバンドを絡めた人間模様、恋模様。

Cacco：これはちょー有名漫画だね。これだけやなやつらばっかが出てくる漫画もめずらしい。奈々（ハチ子）はただのミーハー女。でも多分すごく可愛いんだね。愛くるしさフェロモン全開なんだろうなー。悔しいなあ。登場人物が全員軽いねーちゃんにちゃん割に話はやけに重苦しい。キ、詰まんないんだけどね、なぜか読むんだよね。やっぱり売れてる漫画の持つパワーか。ビジュアル系バンドってのはミステルとは全然違うんだなあなんて考えながら読むのが楽しいのかも。

うさお：読んで居ないのでよく分からない。って言うか読めなかった。うさおも読めないジャンルの漫画はあるんだ。



もやしもん 石川雅之

「某農業大学」に幼馴染と一緒に入学した主人公は「菌」が見えるという特殊能力を生まれつき持っている。キャラの強い教授、先輩達と巻き起こす学内ドタバタ劇。

Cacco：菌がとってもかわいい。先輩ふたりがすごく面白い。教授も大人げなくて面白い。女の子はちょーきれいなのに男たちはダ×男ばっかってとこもいい。ついでに菌の勉強にもなる。菌が見える主人公なんて作者以外誰も考え付かないと思う。すごいすごい。

うさお： ちょいとシニールだが、今までに無く面白い。南方熊楠のことを何故か思い出していた。今年に入って手塚治虫文化賞をとっている。更に「講談社漫画賞」も取っている。昨年は「おおきく振りかぶって」が獲っているの、倅のこの方面の審美眼に感服。そっち方面に行けばいいのになあ。親の僻目である。

山川直人

コーヒーもう一杯

コーヒーもう一杯 山川直人



いろんなシチュエーションで飲むコーヒーが狂言回し役になる短編連作。ちょっと古めかしい太い線の絵柄は独特。

金魚屋古書店 芳崎せいむ

膨大な数の古書（漫画）を扱う「金魚屋」が舞台のこれまた短編連作。時代を作った漫画、あまり知られていない漫画などが一話ごとに取り上げられている。



C a c c o： この二冊はわたしより健さんがツボなんじゃないかと思うの。健さんは喫茶店大好きだしこういう癖のある絵も嫌いじゃないと思う。そして月8万円も本を買ってしまう本収集家なんだから「金魚屋」はもちろん好きだよ。こっちは絵は下手だけど健さんにはオススメだよ。

うさお： 健ちゃん好きな本だ。漫画を志した人間には興味がある漫画である。地下の図書空間をもっと生かした違う展開の話の方が期待が持てるのになあ。



柴王 布浦翼

幼い頃離れ離れになった母を訪ねて小さな柴王が旅をする。行く先々で出会う人たちと柴王の笑って泣けるふれあいほのぼのストーリー。



C a c c o： もう何回もD Gでも紹介しちゃったけどまた読んじゃったから。何回読んでも面白い。何回読んでも泣けてきちゃう。世の中にはいい漫画がたくさんあって「ぼがぼんど」も「リアル」も「ポーの一族」も「ぬじ式」も「日出処の天子」も「ピンポン」も傑作名作。みんな何回も何回も読んだけど「柴王」ってのはその中でも特別なんだよね。とっても漫画らしい漫画。漫画の中の漫画なんだな。もしかしたら今まで読んだすべての漫画の中でこれが一番好きかも。シバオーって寅さんとかあんちゃん（ひとつ屋根の下）とかサザエさんみたいに日本人の心を本能的にキキっちゃうのかも。ギザ カワユ。なぜもっと人気者にならないのかちょー不思議なのだ。

うさお： 本屋さんで柴犬が主役の漫画があったので、わくわくしながら買ってしまいました。作者が「流れ家政婦お竜さん」の布浦翼だったので、これも買いたった。この作者のギャグが抜けていて好きなのだ。しかし、案に相違して意外と犬を通して人間世界の機微を見せてくれた。この本は今、書店に行ってもまず置いてある店は皆無と言っていいだろう。それほどレアな本なのだ。こんな素晴らしい内容なのになんで評価されないんだろう。特に柴王の独特の台詞回しはうちの柴王も言いやうですぐ同調しちゃいます。「お父さん、このおせんべい頂いちゃうのです。美味しいです。」って正座をした柴王が「はあはあ…」してやうだ。



To Be Continued ! いっになるかはわからんけどね(*^*)v